

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	落合亮一教授送別の辞
別タイトル	Farewell Professor Ryoichi Ochiai
作成者（著者）	佐藤, 暢一
公開者	東邦大学医学会
発行日	2020.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 67(1). p.11 11.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	退任記念
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2019 053
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD48174938

落合亮一教授送別の辞

佐藤 暢一

東邦大学医学部麻酔科学講座（大森）

令和2年3月31日を以って麻酔科学講座 落合亮一教授が退職されます。

落合教授は昭和54年に慶應義塾大学を卒業後、国立東京第二病院、国立小児病院、国立埼玉病院などで研鑽を積み、昭和60年には米国ピッツバーグ大学に留学されています。本学には平成15年12月に教授として赴任されました。

私が落合先生にはじめてお会いしたのは大学卒業後すぐですから、26年前のことになります。当時は手術室はもちろんですが、ICUもみられていました。毎週金曜日にICU当直をされており、研修医として一緒に当直させていただくときは緊張したのを覚えています。その頃からいまと同じように常に理論的であり、立ち振る舞いもダンディで周りの看護師さんからも人気が高かったことを覚えています。私は写真でしか拝見していませんが、留学から帰国されてしばらくは見事な口髭も貯えられていたそうです。まだコンピュータもWindowsの出た頃の頃でしたが、当時からパソコンでの麻酔シミュレーター作製などにも関わられておられたりなど多方面に多才な能力を発揮されておりました。

落合先生が本学に赴任された当初は麻酔科の医局員がほとんどいなくなってしまう、今でこそ多くの大学に広まりましたが当時としては画期的な非常勤麻酔科医に大学病院で手伝ってもらおうという新しいアイデアで難局を乗り切られました。その後3年ほど経って私が再び一緒に仕事をさせていただくことになった頃にはほぼゼロから立ち上げ直したとは思えないほどに医局は復活を遂げていました。

本学赴任後には様々な麻酔科改革を行い、従来ベッドサイドに訪室して行っていた術前説明を外来で行うことで、業務をシステム化して効率をあげ、さらに発展した周術期管理チームはいまでは全国から見学者を集めるほどに広がりました。最近ではアジアの麻酔教育を日本で行うことを考え、ベトナムから現地の麻酔科医を定期的に招いて日本の医療機器に触れる機会をつくるなど、本当に退職されるのかと思うほど精力的な活動をされています。

様々なことに興味とアイデアをお持ちの落合先生ですが、研究の主体は麻酔科の根幹ともいべき呼吸生理に関するものです。本学での臨床が軌道にのってからはNPOを立ち上げられ、呼吸管理に携わる幅広い職種の教育にも取り組まれています。看護師、臨床工学技士、理学療法士など呼吸に関係する多職種の認定制度である「呼吸療法認定士」制度の教育講演や、豚を使用して肺保護換気の基礎を学ぶワークショップなども企画されています。学会活動も呼吸管理に関連する日本医療ガス学会、日本呼吸療法医学会、日本麻酔科学会関東甲信越地方会の理事および大会長を務められ、教授職を退かれても学会活動からは抜け出せないかと常々仰られています。

落合先生が退職されることは本学麻酔科学講座には大きな痛手ですが、4月からは2022年に開設予定の羽田病院の準備に奔走され、これからも東邦大学のためにご尽力されると聞いております。まだしばらくは麻酔科学講座のためにお力添えいただけますよう宜しくお願い致します。